

<事前評価>

研究番号	No.1	担当部	健康・食品安全科学部 細菌・飲料水グループ	研究期間	令和4～6年度
研究課題名	石川県における下水中の薬剤耐性菌の動向調査				
研究課題概要	<p>現状・背景</p> <p>近年、薬剤耐性菌の拡散は国際的に大きな問題となっており、厚生労働省による「薬剤耐性対策アクションプラン」において、その骨子の1つである動向調査・監視及び感染予防・管理を担うべき機関として地方衛生研究所が挙げられている。2021年1月に公表された上記アクションプラン年次報告書では、更なる薬剤耐性対策の推進が必要とされている。</p> <p>薬剤耐性菌の蔓延は院内感染のみならず、市中においても問題視されるようになっており、地域における総合的な感染症対策を行っていく必要性が指摘されているが、健康保菌者を含めた地域に潜在する薬剤耐性菌の実態については把握できていない。一方、WHOは、下水から薬剤耐性遺伝子が検出されること、その動向は地域の経済活動や公衆衛生対策を反映することを報告しており、地域における薬剤耐性菌の動向を把握し、その実態を解明することは、県の感染症対策として重要な用務である。</p> <p>研究目標</p> <p>下水中の薬剤耐性菌の動向を調査し、地域における薬剤耐性菌の実態を推測する。</p> <p>研究計画</p> <p>(1)下水中の薬剤耐性菌の検索</p> <p>県内の動向を広く把握することを目的に、金沢地区、能登地区、加賀地区の下水処理施設を対象に、下水中の薬剤耐性菌の検索を実施</p> <p>(2)分離した薬剤耐性菌の詳細解析</p> <p>(3)地域における薬剤耐性菌の実態に関する考察</p>				
評価結果	A	実施することが適当			
委員会意見	<p>石川県における薬剤耐性菌の動向を把握することは重要であり、実施も可能であると考えられ、進めていただきたい課題と思われる。</p> <p>調査する下水道域をいくつかの系に絞ることは、明瞭な解析を行うために妥当と思われる。</p> <p>結果の解析にあたっては、農林水産省が実施している家畜における薬剤耐性菌評価などを参照されたい。</p> <p>在住の外国人にも注目し、海外からの移入の目安とすることも検討されたい。</p> <p>下水中の耐性遺伝子の研究は目的は異なるが金沢大学でも実施しており、ぜひ、情報交換をしながら、実施していただくと良いと思う。</p>				

<事前評価>

研究番号	No.2	担当部	健康・食品安全科学部 ウイルスグループ	研究期間	令和4～6年度
研究課題名	石川県におけるパレコウイルスA感染症の実態解明に関する研究				
研究課題概要	<p>現状・背景 近年、新生児・乳児に敗血症様の症状を示すウイルス感染症としてパレコウイルスA(PeV-A)感染症、特にPeV-A3が注目されている。その一方で、医療機関等では検査診断ができないことから、その疫学や実態は不明な点が多い。本研究により、PeV-A感染症の実態が明らかになるとともに、臨床診断の一助となる。当センターは、科学的根拠に基づいた感染症対策を行うために必要なウイルス詳細解析が可能な県内唯一の機関である。</p> <p>研究目標 県内の医療機関にて、PeV-A感染症疑い症例(6歳以下の小児;入院例、成人;筋痛症等)について、PeV-A等のウイルス検索を行い、PeV-A感染症の実態解明をするとともに、診断指標等の基礎資料とする。</p> <p>研究計画 (1)小児(6歳以下);指定した医療機関(小児科病棟を有する医療機関)において、24時間以上の入院を要し、症状等からPeV-A感染症を疑う症例について検体(咽頭ぬぐい液、糞便等)を採取し、当センターにてPeV-A、エンテロV属、アデノV、HSV、コロナV、水痘・带状疱疹V、サイトメガロV、パラインフルエンザV等の検索を行う。 (2)全年齢(筋痛症等);指定した医療機関(神経内科等を標榜する医療機関)において、筋痛症等の症状からPeV-A感染症を疑う症例の検体を採取し、当センターにてPeV-Aの検索を行う。 (3)家族等濃厚接触者;1.2.のPeV-A検出症例の家族等の濃厚接触者において、症状の有無に関わらず、必要に応じて糞便を採取し、当センターにてPeV-Aの検索を行う。</p>				
評価結果	A	優先して実施することが適当			
委員会意見	<p>パレコウイルスA感染症は対策が望まれる小児疾患の一つであり、本県を対象地として実態解明に取り組むことは意義がある。 件数を増やすためには、出来るだけ連携医療施設を増やす等の努力も必要と思われる。 研究内容について特に症例定義、解析項目などについて、臨床との有効な連携が可能なように小児科にコンサルトし、解析可能なデータ取得を目指されたい。 医師と連携して、県民の健康の維持につながる研究となることを期待する。</p>				